

機関番号：12201

研究種目：基盤研究（A）

研究期間：2007～2010

課題番号：19203036

研究課題名（和文）美術教育文献のアーカイビングに関する発展的研究

研究課題名（英文）Progressive Research on Archiving of Art Education Documents

研究代表者

山口 喜雄（YAMAGUCHI NOBUO）

宇都宮大学・教育学部・教授

研究者番号：90292573

研究成果の概要（和文）： (1)本邦初の美術教育文献 WEB サイト (<http://www.ae-archiving.jp/>) を構築し、英日対訳を含む日本美術教育主要文献解題 442 件を同 Web サイト上に公開した。(2)11 年間の論文 12 件（うち査読付論文 9）を本科研報告書Ⅰ『20 世紀後半の日本美術科教科書研究 山口喜雄著（1998-2008）【日英対訳】』（全 333 頁）にまとめ、〈第 32 回 InSEA 国際美術教育学会世界大会 2008 in 大阪〉にて 400 部、国内外関係機関や諸学会等にて 600 部を頒布した。(3)欧米における著名美術館の教育担当者に対する面談調査を行った。合衆国のシカゴ美術館とメトロポリタン美術館、イタリアのピッティ宮殿美術館とバチカン美術館、フランスのルーブル美術館、スペインのピカソ美術館、イギリスのコートールド協会美術館、オランダの国立ゴッホ美術館等々を対象とし、英日対訳の報告文を本科研報告書Ⅱに記載した。(4)前記の欧米 美術館の面談調査報告を含む「美術教育文献アーカイビングの十年の進展」、「美術教育文献実践報告・研究論文ライティングリサーチ」15 件等々をまとめた 本科研報告書Ⅱ『美術教育のアーカイビング&ライティングリサーチ 2011【英日対訳】』（全 198 頁）を刊行、配布した。

研究成果の概要（和文）： (1) We have developed the first Japanese web site (<http://www.ae-archiving.jp/>) dedicated to art education literature. On the web site, we have published 442 bibliographical introductions, including those with English-Japanese parallel translation, of key art education literature in Japan. (2) We put twelve papers (nine of which are peer-reviewed) from the last eleven years into a 333-page long monograph, *Scientific Research Grant-in-Aid Report I: Study on the Works Introduced in Art Textbooks in the Last Half of the 20th Century in Japan: Japanese-English Parallel Translation* (written by Nobuo Yamaguchi, 1998-2008). We distributed 400 copies of the monograph at the 32nd InSEA World Congress 2008 in Osaka, and another 600 copies to related national and international organizations and at various conferences. (3) We conducted interviews with education specialists at renowned European and North American museums. The interviews were targeted at museums such as the Art Institute of Chicago (USA), the Metropolitan Museum of Art (USA), the Palatine Gallery in the Pitti Palace (Italy), the Vatican Museum (Italy), the Louvre Museum (France), the Picasso Museum (Spain), the Courtauld Institute Gallery (UK), and the Van Gogh Museum (Holland). The interview reports were published both in English and Japanese in *the Scientific Research Grant-in-Aid Report II*. (4) We have published and distributed a 198-page long monograph, *Scientific Research Grant-in-Aid Report II: Art Education Document Archiving*

and Thesis Writing Methodologies 2011 (English and Japanese parallel translation). The monograph consists of fifteen papers, including “Progress in the Archiving of Art Education Literature over the Past Decade (in which contains above-mentioned interview reports with Western museums)” and “Art Education Paper and Study Report Writing Research”.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2007年度	8,100	2,430	10,530
2008年度	5,100	1,530	6,630
2009年度	4,300	1,290	5,590
2010年度	7,600	2,280	9,880
年度			
総計	25,100	7,530	32,630

研究分野：美術教育

科研費の分科・細目：教科教育学

キーワード：美術教育、文献資料、アーカイビング、美術教育史、国際研究、造形教育、主要文献、美術館教育

1. 研究開始当初の背景

本研究「美術教育文献のアーカイビングに関する発展的研究」は、平成 16～18 年度科学研究費補助金基盤研究 B 「日本の美術教科書・美術教育文献資料のアーカイブ化に関する研究」（課題番号 16330172 を以下、「前研究」と記す）を基にした継続的かつ発展的な研究である。

本研究で扱うアーカイブス (archives) とは学習指導要領図画工作・美術や美術科教科書など公文書・公的記録、アーカイブ (archive) とは個人や民間美術教育団体関係の著作、あるいは美術教育ジャーナルなど複数のファイルを一つにまとめたものをさす。前研究は、我が国刊行の大正・昭和初期及び第二次大戦直後の美術教科書ならびに美術教育関係文献資料（以下、美術教育文献と記す）の空白部分を後述する「熊本文庫」のアーカイブ化を通して解明し、社会的活用を目指す目的で設定し、3ヶ年度(2006年10月末現在)に実行したのは次の5課題である。
 (1) データベースの構築：熊本文庫等 10,002冊の整理、データ入力および確認作業完了、
 (2) 『日本美術教育主要文献解題』の編纂：227冊分を美育文化誌掲載(集約し刊行予定)、
 (3) 学会等での研究発表：山口・天形・春日の3名が学会等で計9回の口頭発表、(4) 美術教育文献展覧会：最終年度に行う当初の予定を毎年度、計3回開催、(5) 連続公開研究

報告会および最終年度にシンポジウム：毎年度、計4回開催と開催。

2. 研究の目的

前述の研究あるいは各発表・報告・展覧会を通し次のような問題点や課題が浮上した。構築したデータを美育文化誌掲載ないし『日本美術教育主要文献解題』の刊行により公知したが、現代的なニーズである Web 上の情報化がなされていない。日本における過去の美術教育文献のアーカイブ化は一応進展したが、国際的な公知に必要な英訳が一部分に限られ、国際化という未来を見据えた研究形態には至っていない。後述する美術教育に関する学的な研究機関で重責を担っている本研究の研究代表者および各研究分担者による事前協議では、美術教育研究に関する論文執筆方法が集約されたことがなく、公知された美術教育文献を有効に活用できる人材が斯界に十分に育成されていないという認識で一致した。そのため本研究では前研究過程で浮上した諸課題に対応し、次のように研究目的を更新した。

(1) 入力されたデータベースの整備および公開のための Web サイトの構築
 (2) 日本における過去の美術教育文献のアーカイブ化だけでなく未来を見据え、国際的に現在進行しているアーカイブ化の調査・研究（以下、「アーカイビング」と記す）

(3)『日本美術教育主要文献解題』の継続的な編纂および国際的な公知のための英訳ならびにアーカイビング資料を活用した論文執筆方法論集の刊行

(4)連続公開研究報告会における基調報告、ならびにアーカイビング資料を活用した論文執筆方法論の講演

(5)論文執筆方法論の講演に対応した美術教育文献展覧会

(6)学会等での研究発表や論文執筆、それらの国際的な公知のための英訳とその添付

3. 研究の方法

(1)データベース&Web サイト構築

①既データ確認作業とデータベースソフトの検討

②4ヶ年度のデータベース化構想案の作成、

③Web サイト企画 (第1～5階層に分化、ホーム・各情報別・訪問者別メニューなど策定)

④Web サイト構築・情報発信

(2)アーカイビング国際調査

①4ヶ年度のアーカイビング国際調査の検討・企画

②調査対象はアメリカ・イタリア・フランス・スペイン・イギリス・オランダ等々の著名美術館

③報告書作成およびその英訳 (概要) Web サイトへの掲載

(3)日本美術教育主要文献解題

①4ヶ年度の「主要文献解題」の企画

②「主要文献解題」約60編の執筆依頼・『美術文化』誌上発表およびその英訳

③アーカイブ化資料を活用した「論文執筆方法論」発表およびその英訳

(4)美術教育研究論文執筆方法論の研究

①4ヶ年度の「論文執筆方法論」の企画

(5)連続公開研究報告会3種の展開

①美術教育文献アーカイビング研究会

②美術教育論文・実践報告ライティングリサーチ

③第32回 InSEA 世界大会 2008in 大阪招待セミナー

4. 研究成果

美術教育を通して「自主的に環境に対面できる」心を培うための授業実践を行い、かつ多くの教育者や保護者に明瞭に伝えられる実践報告の執筆、さらに学的研究の執筆に何が重要かを資料としてまとめるために本科研報告書Ⅰ『20世紀後半の日本美術科教科書研究 山口喜雄著 (1998-2008)【日英対訳】』(全333頁)、および本研究活動記録のカラーグラビア16頁を付した報告書Ⅱ『美術教育のアーカイビング&ライティングリサーチ 2011【英日対訳】』(全198頁)を刊行、配布した。

また、それらの研究に不可欠な美術教育文

献を活用しやすくするために『日本美術教育主要文献解題』コーナーを設置した本科研 Web サイト「美術教育文献のアーカイビングに関する発展的研究」に2008年2月時点で262件、2011年3月末現在までに180件を加えて累計442件を掲載した。

巻頭に記したが、現状では『目録』や『解題』等の文献を整備しても、その活用が学習者あるいは教員養成大学における個々の大学院担当教員の個人的な能力の域を出ないため、各大学単位での努力では閉塞状況が打開できないと考えた。その打開のために文献を活用した論文執筆方法論のレクチャーを従前の関東圏だけでなく関西や東北方面でも展開した。5回の「美術教育論文・実践報告ライティング・リサーチ (略称:ライティングリサーチ)」および4回の「美術教育文献アーカイビング研究会 (アーカイビング研究会)」という研究会名を2種使用して4年間に合計9回の事業を各地域で展開し、多数の教師や大学院生との交流を実施してきた。それらの記録として報告書Ⅱ『美術教育のアーカイビング&ライティングリサーチ 2011【英日対訳】』の巻頭カラーグラビアや「美術教育文献アーカイビングの十年の進展」、14氏の執筆および討議記録による「美術教育文献実践報告・研究論文ライティングリサーチ」に詳細を記述した。

アメリカ、イタリア、バチカン、フランス、スペイン、イギリス、オランダ、ベルギーにある多数の美術館を訪れ、うち著名な12美術館にて面談調査を行った。面談でなければ理解できない美術館教育普及活動の歴史や困難を越える努力等々を拝聴し、前記の本科研報告書Ⅱの「アーカイビング国際調査」に記した。報告に値する様々な試みとして、人口の4%12万人へのスチューデントプログラムを行うシカゴ美術館、イメージライブラリーで美術教育文献アーカイブを展開するメトロポリタン美術館、年間に教育普及対象の2000団体に対応しているバチカン美術館、「美術教育重視の始原は1789年のフランス革命」との沿革を誇りに豊かな教育普及活動を実施するルーブル美術館、2006年以降「子どものための美術館」づくりを急ピッチに進めているピカソ美術館、大学との連携を生かしたコートールド協会美術館、美術館教育普及活動を多彩で具体的に提示するゴッホ美術館等々である。(東日本大震災による停電や混乱で各美術館に記述内容確認の往復メールが不備のため、報告書Ⅱ刊行後に各美術館との確認を行い、必要な加筆訂正を前掲の本 Web サイトに記載する)。また、世界的な経済の閉塞状況により財政が逼迫し、世界的に著名な美術館であっても美術教育研究者や実践者にとって必要な文献を提示することができないと、ほとんどの美術館関係者が

語っていた。その意味で、本研究会が公開している Web サイトは世界的に極めて貴重な存在であるということを確認することができた。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[主な雑誌論文] (計 175 件)

(1)山口喜雄、戦後の美術科教科書における掲載作品の研究(12)－「民主主義」題材に関する考察、日本美術教育研究論集 No.44、2011、(社)日本美術教育連合、pp.75-84、査読付。

(2)春日明夫、子どものためのデザイン－キッズサイズデザイン概論 I、東京造形大学研究報別冊 10 巻、2011、東京造形大学、pp.1-110。

(3)新関伸也、特定の課題に関する調査(図画工作・美術) 調査結果(小学校・中学校)、国立教育政策研究所教育課程研究センター、2011、pp.243-250。

(4)福本謹一、伝統・文化の学習を図画工作・美術でどう展開するか、教育研究 64 巻 8 号、2010、初等教育研究会、pp.14-17。

(5)永守基樹、自画像とメディア－美術教育における題材設定、形(Forme) 294 号、2010、日本文教出版、pp.6-9。

(6)山口喜雄、戦後の美術科教科書における掲載作品の研究(11)－平和題材に関する考察、日本美術教育研究論集 No.43、2010、(社)日本美術教育連合、pp.81-90、査読付。

(7)山口喜雄、戦後の美術科教科書における掲載作品の研究(10)－色彩題材の変遷とその掲載作品に関する考察、日本美術教育研究論集 No.42、2009、(社)日本美術教育連合、pp.57-68、査読付。

(8)永守基樹、美術教育における「作品」という問題群－「反・作品」から「脱・作品」へ、美育文化 61 巻 1 号、2009、美育文化協会、pp.13-19。

(9)柴田和豊、[共通事項]をどう考えるか、造形ジャーナル 54 巻 4 号、2009、開隆堂、pp.2-5。

(10)天形 健、育みたい「想像力」－人間らしい成長のために、月刊 Web マガジン「まなびと」27 巻、2009、日本文教出版、pp.1-1 頁区切無。

(11)天形 健、ユニバーサルデザイン

(universal design)、月刊 Web マガジン「まなびと」35 巻、2009、日本文教出版、pp.1-1 頁区切無。

(12)春日明夫、私と芸術教育研究所、芸術教育、2009、芸術教育所、pp.55-59。

(13)福本謹一、[共通事項]を生かす図画工作、美術の授業実践、造形ジャーナル 54 巻 5 号、2009、開隆堂、pp.2-5。

(14)新関伸也、勝見勝のデザイン教育へのまなざし－昭和 30 年代の普通教育への言説より、大学美術教育学会誌第 41 号、2008、美術科教育学会、pp.213-220、査読付。

(15)藤澤英昭ほか、座談会企画・司会、図画工作の新学習指導要領、造形ジャーナル 53 巻 3 号、2008、開隆堂、pp.3-6。

(16)藤澤英昭ほか、座談会企画・司会、新学習指導要領を読む－図画工作・美術、美育文化 60 巻 3 号、2008、美育文化協会、pp.7-15。

(17)福本謹一、「生きる力」をはぐくむ美術教育の展開 [美術]、中等教育資料 2008 年 9 月号、2008、文部科学省、pp.34-39。

(18)山口喜雄、戦後の美術科教科書における掲載作品の研究(9)－掲載された映像メディア作品に関する考察、日本美術教育研究論集 No.41、2008、(社)日本美術教育連合、pp.67-76、査読付。

(19)新関伸也、間所春による「まよひみち」とデザイン教育、美術教育学第 29 号、2008、美術科教育学会、pp.383-394、査読付。

(20)柴田和豊、鑑賞教育再考－受容と表出の連環を求めて、美育文化 60 巻 6 号、2008、美育文化協会、pp.13-18。

(21)藤澤英昭、伝統・文化・ものづくり・造形教育、美育文化 59 巻 5 号、2007、美育文化協会、pp.13-18。

[学会発表] (計 37 件)

(1)山口喜雄、戦後の美術科教科書における掲載作品の研究－「情報化」に関する掲載作品の考察、第 33 回美術科教育学会、2011.3.27、富山大学。

(2)永守基樹・神野真吾・谷口幹也、第 3 回現代 AE 部会コロキウム:美術教育における“私を表す”ことの現在をめぐって、第 33 回美術科教育学会、2011.3.27、富山大学。

(3)新関伸也、鑑賞の授業モデルと視覚教材開発、第33回美術科教育学会、2011.3.26、富山大学。

(4)山口喜雄、戦後の美術科教科書における掲載作品の研究(12)－「民主主義」題材に関する考察、第44回日本美術教育研究大会、2010.10.24、武蔵野美術大学。

(5)天形 健、言語活動の充実と美術教育、第44回日本美術教育研究大会、2010.10.24、武蔵野美術大学。

(6)山口喜雄、美術教育の国際的アーカイビングに関する研究－米伊仏西等5カ国の6美術館での面談調査の集約と考察、第49回大学美術教育学会、2010.9.19、武蔵野美術大学。

(7)柴田和豊、黒田清輝の輝きと限界、平成22年度黎明館講演会、2010.7.4、鹿児島県・歴史資料センター黎明館。

(8) 福本 謹一、The Development of Teachers' Competency Standards in Japanese Universities of Education、UNESCO World Congress on Arts Education、招待講演、2010.5.25、Seoul Korea。

(9)春日明夫、キッズサイズデザイン・プロジェクト－社会連携事業活動の実践報告、第32回美術科教育学会、2010.3.28、仙台メディアパーク。

(10)山口喜雄、戦後の美術科教科書における掲載作品の研究－「個性」に関する掲載作品の考察、第32回美術科教育学会、2010.3.27、仙台メディアパーク。

(11)新関伸也、協同的思考と問題解決を基軸としたデザイン教育、第32回美術科教育学会、2010.3.27、仙台メディアパーク。

(12)福本謹一、Collaborative/Comparative Approaches in Art lessons for the Actual Globalization in Art Education、韓国ソウル大学招待講演、2010.1.6、韓国ソウル大学。

(13)山口喜雄、戦後の美術科教科書における掲載作品の研究(11)－「平和」題材に関する考察、第43回日本美術教育研究大会、2009.10.18、筑波大学大塚分館G館。

(14)山口喜雄、戦後の美術科教科書における掲載作品の研究－「平和」題材の記述に関する考察、第48回大学美術教育学会、2009.9.26、名古屋メディアパーク。

(15)新関伸也、共同討議・コーディネーター：感性を拓く美術の学び－美術の力を改めて問う、第58回日本美術教育学会、2009.9.19、滋賀県立近代美術館。

(16)福本謹一・永守基樹・山木朝彦、美術教育における新たな教科内容学の構築を目指して、第31回美術科教育学会、2009.3.27、佐賀大学。

(17)山口喜雄、美術教育のアーカイブに関する研究、第47回大学美術教育学会、2008.11.2、高知大学。

(18)新関伸也ほか、シンポジウム：新学習指導要領と教員の意識改革、第47回大学美術教育学会、2008.11.2、高知大学。

(19)山口喜雄、戦後の美術科教科書における掲載作品の研究(10)－色彩題材の変遷とその掲載作品に関する考察、第42回日本美術教育研究大会、2008.10.19、帝京平成大学池袋キャンパス。

(20)天形 健、図画工作・美術科で育む学力に関する研究、第42回日本美術教育研究大会、2008.10.19、帝京平成大学池袋キャンパス。

(21)福本謹一、レイチェル・メイスン、ジョン・ステイアーズほか、創造性とイノベーション？ 英国の公教育における美術・デザイン教育の変貌、第32回InSEA国際美術教育学会世界大会2008in大阪、2008.8.8、大阪国際交流会館。

(22)藤澤英昭・山口喜雄、20世紀後半の美術科教科書研究と現代日本の美術科教科書編集、第32回InSEA国際美術教育学会世界大会2008in大阪、2008.8.6、大阪国際交流会館。

(23)春日明夫、初期フィッシャープライス社の木製玩具、第20回日本人形玩具学会総大会、2008.6.14、桑沢デザイン研究所。

(24)山口喜雄、戦後の美術科教科書における掲載作品の研究－色彩に関する題材における説明文の考察、第30回美術科教育学会、2008.3.29、群馬大学。

(25)春日明夫、普通教育における造形ムーブメントの研究Ⅱ－桑沢学園と普通教育における造形教育Ⅰ、第30回美術科教育学会、2008.3.29、群馬大学。

(26)新関伸也、昭和 30 年代のデザイン教育の諸相、第 30 回美術科教育学会、2008.3.29、群馬大学。

(27)山口喜雄、美術教育文献アーカイビングの課題、第 46 回大学美術教育学会、2007.11.4、神戸国際会議場。

(28)新関伸也、間所春による「まよいみち」とデザイン教育、第 46 回大学美術教育学会、2007.11.4、神戸国際会議場。

(29)山口喜雄、戦後の美術科教科書における掲載作品の研究(9)－掲載された映像メディア作品に関する考察、第 41 回日本美術教育研究大会、2007.10.21、桑沢デザイン研究所。

(30)天形 健、表現力の低下と認識力の低下、第 41 回日本美術教育研究大会、2007.10.21、桑沢デザイン研究所。

(31)山口喜雄、中学校美術科教科書における漫画と感性、第 9 回日本感性工学会、2007.8.1、工学院大学。

〔主な図書〕(計 23 件)

(1)山口喜雄・藤澤英昭・柴田和豊・天形 健・春日明夫・福本謹一・永守基樹・新関伸也編著、課題番号 19203036、2011、全 198 頁、*Scientific Research Grant-in-Aid Report II: Art Education Document Archiving and Thesis Writing Methodologies 2011*【English - Japanese parallel translation】

(2)春日明夫単著、戦時下の造形－資料が語る／教育・遊び・生活、2010、インフォテック、全 76 頁。

(3)新井哲夫・天形 健・山口喜雄編著、小学校図画工作科の指導、建帛社、2010、全 198 頁

(4)福本謹一編著、新中学校美術科題材案&授業展開の工夫、明治図書、2010、全 131 頁。

(5)春日明夫・小林貴史編著、桑沢学園と造形教育運動－普通教育における造形ムーブメントの変遷、アイノア、2010、全 209 頁。

(6)福本謹一・山木朝彦・奥村高明共著、図画工作科・美術科の教科内容構成の原理と枠組み、風間書房、2009、全 256 頁。

(7)山口喜雄・藤澤英昭・柴田和豊・天形 健・春日明夫・福本謹一・永守基樹・新関伸也、*Scientific Research Grant-in-Aid Report I I:ほか、*

20 世紀後半の日本美術科教科書研究、課題番号 19203036、2008、全 333 頁、*Scientific Research Grant-in-Aid Report I: Study on the Works Introduced in Art Textbooks in the Last Half of the 20th Century in Japan* by Nobuo Yamaguchi (Written between 1998-2008)[Japanese-English parallel translation]

(8)神林恒道・新関伸也編著、鑑賞ガイドブック日本美術 101、三元社、2008、全 234 頁。

(9)神林恒道・新関伸也編著、鑑賞ガイドブック西洋美術 101、三元社、2008、全 238 頁。

〔その他〕

ホームページ等

<http://www.ae-archiving.jp/> 美術教育文獻 WEB サイト (Art Education Document WEB Site)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

山口喜雄
宇都宮大学・教育学部・教授
研究者番号：90292573

(2) 研究分担者

藤澤英昭
千葉大学・教育学部・教授
研究者番号：90173418
(H21 年度まで分担者として参画)

柴田和豊
東京学芸大学・教育学部・教授
研究者番号：80094077

天形 健
福島大学・人間発達文化学類・教授
研究者番号：90302306

春日明夫
東京造形大学・造形学部・教授
研究者番号：80366377

福本謹一
兵庫教育大学・学校教育研究科・教授
研究者番号：80165315

永守基樹
和歌山大学・教育学部・教授
研究者番号：40164470

新関伸也
滋賀大学・教育学部・教授
研究者番号：80324557